

物心ついた時から漠然とした
生きつらさみたいなものを
感じていた

運良く合格したのは
東京都立立川高校
普通科と定時制が併存
する自由な校風の進学校
だった

マンガで見る「山本ようすけ」 序章：ぼくはどう生きるか

高校生活の中で
ぼくは自分の意
味を探していた

背が低く運動神経
も良い方ではない…
人付き合いもどちら
かという苦手…

そんな自分に
一体何が
できるか…

高校生活は楽しん
でいる方だと思っ
てる

高校生活は楽しん
でいる方だと思っ
てる

山本部にも入った

一巻の巻頭

恋をしたり
沢山の個性的な人
たちに出逢い

伝統的に自由な校風の中で
ぼくは自分の色を発揮して
生きる人たちが大好きだった

だから

いい大学に
入りなさい？
塾に行け？

学歴に
何の意味が
あるんだ？

「三散らかし
やがって！
定時制の奴ら
なんなんだ！
山本もそう
思うよな？」

その憎しみは
差別につなが
らないか？

えと…その…
「めん…
上手く
話せなくて…」

どうすれば
人は理解し合
えるんだ…？

「自由に生きられない」
生きつらさを誰もが抱えて
いることについて、
ずっとずっと考えていた

自分に一体
何ができるか
資料配るぞー

それは「チョコ」
シートに関する
資料だった



1枚百円で売られている「チョコ」
で得られるカカオ農園の取り分は
数円にも満たない…
その結果 農家たちは過酷な児童
労働に依存せざるを得なくなる

カカオだけじゃない
コーヒー 紅茶 綿 砂糖 バナナ
ゴム 貴金属 宝石…
目に見えないけど子どもの搾取は
そこかしこに存在する

普段何気なく
すこしているだけ
でも

子どもたちの未来を
奪ってしまっている
という事実が
心に重くのしかかっ
てきて

みんな生きつらい
でも もっと
生きつらい
人たちがいる

だったら…

河原で会ったホームレスの
おじいちゃんに
君たちの可能性は
無限大だと言った

世の中の生きつらい
人たちのために
生きられないだろうかと
そう思った

けど自分に
本当にそんなことが
できるんだろうか